

# 公共事業再評価調査

整理番号 H15-32

担当部課室名	県土整備部 河川砂防課	電話番号	017-734-9663
		E-MAIL	kasensabo@ags.pref.aomori.jp

再評価実施要件	未着工 長期継続( )年 再評価後(5年) その他( )
---------	------------------------------

## 1 事業概要

事業種別	河川改修事業	事業主体	県 市町村 其他( )					
事業名	堤川広域基幹河川改修事業	地区名等	- 市町村名 青森市					
事業方法	国庫補助 県単独	財源・負担区分	国 50% 県 50% 市町村 % 其他 %					
採択年度	S43年度 (用地着手 S43年度 / 工事着手 S43年度)							
終了予定年度	H20年度 ( )年 月計画変更 当初計画時 年度 ( )							
事業目的	自然環境の保全に配慮しながら河川改修の工事を行い、堤川水系沿川の人家や田畑を洪水被害から守る。							
主な内容	全体改修延長: L=9,300m(堤川工区 L=4,400m、駒込川工区 L=1,700m、横内川 L=2,100m、合子沢川工区 L=1,100m、治水緑地工区 A=62.5ha) 築堤 L=19,905m、掘削 L=8,994m、護岸 L=14,356m、(遊水地)掘削 V=1,816千m <sup>3</sup> 、道路橋 N=15橋 用地買収 A=741,157m <sup>2</sup>							
事業費	再評価時総事業費 32,500 百万円 (単位:百万円)							
		~12年度	13年度	14年度	15年度	小計	16年度~	合計
	計画 (うち用地費) 年月変更	( ) ( )	( ) ( )	( ) ( )	( ) ( )	( 28,537 ) ( 10,010 )	( 3,963 ) ( 1,390 )	( 32,500 ) ( 11,400 )
実績 (うち用地費)	28,538 ( 10,558 )	1,060 ( 239 )	930 ( 84 )	225 ( 147 )	30,753 ( 11,028 )	1,747 ( 372 )	32,500 ( 11,400 )	

## 2 評価指標及び項目別評価

### (1) 事業の進捗状況

(A) · B · C

事業の進捗状況	事業費割合 (うち用地費)		計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗	
			94.6% [ / ]	107.8% [ / ]	
			( 96.7% ) [ / ]	( 110.2% ) [ / ]	
	主要工種毎割合 (事業費)	築堤(674百万円)	延長割合	90.5%	延長割合 103.0%
		掘削(1,016百万円)	延長割合	89.4%	延長割合 102.4%
		護岸(3,716百万円)	延長割合	94.3%	延長割合 94.2%
		(遊水地)掘削(5,483百万円)	数量割合	100.0%	数量割合 100.0%
道路橋(1,277百万円)		箇所数割合	64.8%	箇所数割合 66.7%	
	用地買収(9,489百万円)	面積割合	99.4%	面積割合 113.2%	
説明	・計画全体に対する進捗は90%を越えており、本事業は計画どおり進んでいる。 ・改修中の合子沢川工区の用地補償は100%、横内川工区は83.6%が完了している。				
問題点・解決見込み	-				
事業効果発現状況	・本川堤川工区(4,400m)、駒込川工区(1,700m)の改修は完了し、一連の治水効果を発揮している。 ・治水緑地工区(遊水地)についてもH15年度完了し、下流改修区間と併せ青森市街地の浸水被害の解消に、その洪水調節機能を発揮している。				

### (2) 社会経済情勢の変化

(A) · B · C

社会的評価	全国・本県における評価	<p>[全国の評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近年の異常気象により、全国各地で局地的豪雨による氾濫被害が発生しており、これら河川の災害対策及び治水安全度の向上が急務となっている。</li> <li>近年の河川環境に配慮した河川整備に対する関心の高まりに対し、自然環境に配慮した河川整備が求められている。</li> </ul>	<p>[県内の評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県内の河川の整備率は約32%と東北6県平均41%に比べ立ち遅れており、毎年、各地で浸水被害が発生していることから、今後とも整備率向上に向け積極的に河川改修事業を進めていく必要がある。</li> <li>地域住民の水辺環境への関心は高く、自然環境に配慮した多自然型川づくりによる整備が求められている。</li> </ul>	
	当地区における評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>H14年8月の大雨により未改修区間の横内川及び合子沢川で、合わせて浸水家屋22戸、浸水面積20haの被害が発生し、両支川の治水安全度の向上が急務となっている。</li> <li>また、遊水地完成の投資効果を十分発揮させるためには、遊水地へ流入する両河川の整備が必要である。</li> </ul>		
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>堤川は二級河川であり、県管理区間であることから事業者は青森県となる。</li> <li>想定氾濫区域内には約72,000人が居住し、想定氾濫被害額は約6,259億円と見込まれる。</li> <li>これまでの改修により、本川堤川、駒込川沿川の浸水被害の解消が図れたが、改修が完了していない横内川及び合子沢川では、H2年9月、H11年10月、H14年8月とたびたび浸水被害が発生している。</li> <li>このため、横内川、合子沢川についても計画規模1/100(100年に1回発生するような大雨)を目指し、段階的に治水安全度の向上を図りながら、今後とも計画的に改修工事を進めて行く必要がある。</li> </ul>			(a) · b
適時性	<ul style="list-style-type: none"> <li>横内川、合子沢川では、H2年9月17日には196戸(うち床上21戸)、H11年10月28日には180戸(うち床上18戸)、H14年8月11日には22戸(うち床上2戸)と、慢性的な浸水被害が発生している。</li> <li>本川堤川工区、駒込川工区は完了しており、治水緑地工区もH15年度には完成する予定である。</li> <li>これに対し、横内川の現況流下能力は計画高水流量220m<sup>3</sup>/sに対し27%、合子沢川は170m<sup>3</sup>/sに対し7%と未だに低い。</li> <li>また、両河川の整備により流下する洪水は、遊水地完成の効果により下流の市街地の負担とならない。</li> </ul>			(a) · b
地元の推進体制等	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年、被害を受けていることから、事業に対する地元の期待は大きく、協力的である。このため用地買収は約97%が買収済みという高い進捗となっている。</li> </ul>			(a) · b
効率性	-			

(3) 費用対効果分析の要因変化

(A) ・ B ・ C

区分	主な項目	再評価時	再々評価時	増減
費用項目 (C)	(1) 建設費	50,803 百万円	65,904 百万円	15,101 百万円
	(2) 維持費	6,218 百万円	8,116 百万円	1,898 百万円
	(3) 残存価値	-311 百万円	-364 百万円	53 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総費用	56,710 百万円	73,656 百万円	16,946 百万円
便益項目 (B)	(1) 治水	419,603 百万円	472,509 百万円	52,906 百万円
	(2)	百万円	百万円	0 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総便益	419,603 百万円	472,509 百万円	52,906 百万円
B / C		7.40	6.42	
【費用対効果分析手法】 (分析手法、根拠マニュアル等) 治水経済調査マニュアル(案) : H12.5 【費用対効果分析における特記事項】 -				

(4) コスト縮減・代替案の検討状況

(A) ・ B ・ C

コスト縮減	【コスト縮減の検討状況】 ・ 河道内の掘削土を築堤に流用することにより、経費の縮減を図っている。 ・ 管理用道路の路盤材に再生砕石を使用し、経費の縮減を図っている。	(a) ・ b
代替案	【代替案の検討状況】 ・ 堤川下流部は人家が密集しており河道拡幅が困難なため、ダム等の貯留施設と河道改修の適正な組み合わせを検討し、現計画である下湯ダム、駒込ダム、横内川遊水地の3つ貯留施設と河道改修を行う治水対策案を採用した。	(a) ・ b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点

(A) ・ B ・ C

住民ニーズの把握状況	【住民ニーズの把握方法】 ・ 地区毎に工事説明会や用地説明会を開催し、地区住民の意見を聞くと共に、個別の用地交渉の場においても住民の要望等を把握している。	【住民ニーズ・意見】 ・ 沿川の住民は、H14年8月に浸水被害を受けていることから、改修促進に対する要望が多い。	(a) ・ b
環境影響への配慮	【地域別環境配慮指針への対応】 (1) 地域区分 <input type="text" value="A1h"/> (2) 対応状況 配慮している 配慮していない	【開発事業等における環境配慮指針への対応】 配慮している 配慮していない	(a) ・ b
地域の立地特性	【特記事項】 ・ 横内川では護岸は必要最小限にとどめると共に河岸は緩い勾配とし植生で覆い、合子沢川では環境保全型タイプの護岸を採用すると共に河道内に「みお筋」を設ける等、河川が本来有している生物の良好な生育環境や、自然景観の保全に努めている。		

3 対応方針

総合評価	継続	計画変更	中止	休止 (林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
評価理由	・ H14年8月の大雨等により浸水被害が発生していることから、未改修区間沿川住民の生命財産を洪水被害から守る本事業は、継続して実施する必要がある。			
備考				

4 公共事業再評価審議委員会意見

委員会意見	対応方針(案)どおり	対応方針(案)を修正すべき		
委員会評価	継続	計画変更	中止	休止 (林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
附帯意見				
評価理由				